

平成18年度 府立北桑田高等学校 学校経営計画 (年度総括)

学校経営方針(中期経営目標)		昨年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
1	学力の充実・向上	(1) 学校経営 【成果】・土曜補習の実施(年間22回) ・部活動・生徒会活動の活性化(奉仕活動の実践その他) ・防災訓練、施設設備点検の実施		1 学力充実向上 (1) 研究授業・公開授業の実施 (2) シラバスに基づく計画的な学習指導 (3) 自主的な学習習慣を確立する指導の工夫	
2	希望進路の実現	【課題】・進路補習の実施状況等の把握 ・生徒の基本的マナー指導 ・門扉の老朽化 ・舎監1名による寮の管理		2 希望進路の実現 (1) 土曜補習の実施、活用 (2) 進路補習の計画的な実施 (3) 府立高校実力テストの活用	
3	地域から信頼され、地域の誇りとなる生徒の育成	(2) 学校教育 【成果】・生徒の怪我、病気、問題行動への組織的対応 ・管理職、教職員間相互の緊密な連携 ・普通科・類の教育課程の共通化 ・府立高校実力テストを教科指導等へ利用 【課題】 ・シラバスの充実 ・府立高校実力テストのより有効な分析 (3) 職員の管理・育成 【成果】・部長会による調整 ・本校の課題を地域の課題として理解してもらった ・研修、教職員評価による教員の意識改革 ・衛生委員会の定期開催(年6回) 【課題】・部長会の議論の活発化 ・地域の教育保障 ・生徒による授業評価 ・情報管理に関する校内マニュアル作成 ・教職員の健康管理、業務分担の適正化		3 地域から信頼され、地域の誇りとなる生徒の育成 (1) 特に学区外からは明確な目的意識を持った生徒を入学させる。 (2) 全教職員が共通理解・認識をもった学校運営の実施 (3) 教職員の合意形成の工夫改善と、生徒と接する時間の確保 (4) 特色ある教育課程や部活動の推進 (5) 積極的な広報活動により、中学生及び地域の人々の本校教育活動への理解を一層深める。 4 教職員の健康管理 (1) 勤務時間を適正にし、教職員と家族の心身の健康を保持する。	
分掌	評価領域	重点目標	評価		成果と課題
	組織・運営	学校教育目標の具現化	B	B	学校の教育目標と具体的な行動計画との関連づけが不十分で、様々な取組に明確な目的と到達目標を与えられなかった。 進路室の移転がまだできていない 広報活動を積極的に行ったが浸透が不十分 研究授業、公開授業についてはさらに内容の検討が必要。
		連携を重視した組織体制の確立	B		
	家庭・地域との連携	家庭・地域社会との連携	B		
	研修・研究活動	研修・研究による指導力向上	B		
総務部	人権教育	生徒の進路や生き方と関連させ、人権意識の高揚を図り、人権問題に対する正しい理解・認識の基盤を築く	B	B	会員名簿等の個人情報確認作業徹底が図れていなかった。システム作りが必要 創る会・新教育懇の企画(時間・内容)が不十分な点が残った。 バスについてはダイヤの改善などで運行状況が改善した。連絡をさらに密にしたい。
	PTA等渉外関係	将来展望を見据えた着実なPTA活動を目指し、適正な諸会議の運営を図る。	B		
	バスの運行	通学バスの利便性の向上	B		
教務部	教育課程	特色ある教育課程の編成	B	B	英数国に重点を置いて教育課程を実施した。 授業アンケートは半分のクラスが未実施。 シラバスや授業の公開はできたが、結果の公開や利用など次のアクションが課題 広報活動は総務部と連携した。
	教科指導	シラバスにより科目ごとの計画を明確にし、生徒の学習習慣を確立させる。	B		
	広報活動	選ばれる学校を目指し、本校の特色を積極的にアピールする。	A		
	図書館管理等	図書館利用の推進	B		
進路指導部	進路指導	生徒の目的意識を高め、明確にさせていくための計画的・系統的な指導の確立	A	B	進路ノートの発行時期を4月当初に早める。また内容も検討がいる
		主体的な進路選択能力の養成と学力の向上	B		

生徒指導部	生活指導	基本的な生活習慣を身に付けさせる。	A	B	女子生徒への指導の充実 遅刻常習生徒への働きかけの強化と担任との連携強化 全校集会が定着しつつある 部活動未加入生徒個々への働きかけ リーダー意識を育てる指導の工夫の不足 教職員と生徒会役員等との間の意見交流の工夫 全校生徒への呼びかけ強化 4ない運動では更なる強化が必要 不審者対応で、校外での指導が実践できていない 校外での安全指導の実施
	部活動	部活動の活性化と人材育成	B		
	生徒会活動	生徒会行事の充実 ボランティア等への参加	B		
	安全指導	4ない運動 + 1の継続指導 不審者等への対応強化 登下校時の安全確保	B		
第一学年部	学習指導	学習の習慣と姿勢づくり	B	B	部活動の加入率も高く学園祭でも各クラス積極的な取組がみられた。
	生活指導	基本的な生活習慣の確立	B		
	進路指導	三年間を見通した計画づくりと指導充実	B		
第二学年部	学習指導	学習の習慣と意欲の向上を図る	B	B	学習について指導は入れているが、なかなか家庭学習に結びつかないものが多いことが課題。
	生活指導	行事等で中心的な役割を果たせるよう自覚を促す。	B		
	進路指導	三年間の進路指導の二年目として進路への見通しを持たせる。	A		
第三学年部	学習指導	授業を中心に課外活動とのバランスを考慮し家庭学習時間を確保させる。	A	B	学年の95% (107名中102名) が部活動に取り組むとともに補習にも多数出席し学力向上に努め、部活動引退後は進路希望実現に向けてスムーズに移行できたと思われる。進路決定後も崩れることなく授業や学習に取り組めた。学年独自の遅刻指導の継続で、ごく一部の生徒を除き規律ある学校生活が送れている。
	生活指導	上級生としての自覚を持たせ、規律ある学校生活を送らせる。	B		
	進路指導	自己の進路希望の実現に向けて主体的に取り組ませる。	B		
保健部	健康安全管理	保健管理、健康教育を充実し、生涯に渡る健康づくりを目指す。	B	B	保健指導会議を開催し、学年等との連携をより一層深める必要がある。 美化委員の活動の強化
	学習環境整備	清掃美化に努め、良好な学習環境を確立する。	B		
農場部	農場管理	農場収入と圃場の計画的な運営	A	A	府林務課の事業と共同実施し作業道の開設 農場収入の目標額の目処がつきそうである。 計画通りの実施ができた。 個々に応じた進路指導ができた。 府大会10種目中5種目入賞 今後、更に安全を徹底したい。
	専門学科教育	進路指導部との連携と、誇りの持てる専門教科指導	A		
寮務部	寮運営	愛情を基盤とした寮運営	B	B	民間休職委託へもスムーズに移行。寮生への指導では生徒部との連携が有効に機能した。保護者との連携をさらに強める必要がある。 講師報償費等柔軟に予算対応できた。
事務部	学校財政	機動的・積極的な財政運営に努め、学校経営に参画する。	B	B	寮費口座振替で支払のスピードアップができた。 事務室で集中管理した。 更衣室を整備した。 文書整理、廃棄ができた。
	施設設備管理	安全で快適な施設設備の充実を図る。	B		
	文書・情報管理	個人情報保護の観点から、文書やデジタル情報の管理を徹底する。	B		

国語	教科指導	国語に関する理解力、表現力を伸ばす。	B	B	授業内での表現指導は不十分であった。
社会	教科指導	計画的・効率的な指導	B	B	年間計画に基づく計画的な指導の再検討が課題である
		生徒の学力の充実向上			
数学	教科指導	基礎・基本の徹底と学習習慣の確立を目指す。	B	B	課題提示しているが、まだ学習習慣が身に付いていない生徒もいる。それらの生徒への対応が課題である。
		応用力の伸張を図り、学力の向上を目指す。	B		
理科	教科指導	自然の事物・現象について理解を深め、科学的な自然観を育成する。	B	B	実験・実習の機会を増やすよう努める。
保健体育	教科指導	健康安全に留意した指導	B	B	担任との連携を図り、基本的な生活習慣が身につくように、より一層指導していく。 準備・後片付け塔生徒分担任の徹底
		主体的で意欲的な授業態度の育成	B		
芸術	教科指導	指導と評価の一体化 <small>生涯にわたって芸術を愛する心構を育てる。</small>	B	B	一部の科目で生徒の実態と計画に隔たりがあり計画を変更せざるを得なかった。
英語	教科指導	日々の学習の定着を図るため、授業と補習を充実させる。	A	B	全体として生徒の学習習慣を定着させることができ、英語検定で成果が上がった。文法や単語の知識で不十分な部分があり、学習指導にさらに工夫がいる。
		コミュニケーション能力の向上を図る。	B		
家庭	教科指導	日々の授業を前向きに取り組ませる。	B	B	外部講師の活用による手話講座は大成功だった
		日々の授業を実生活に役立てる。	A		
農業	教科指導	進路実現に役立つ職業教育の充実を図る	A	A	高大連携、展示会、農業クラブの活動を通して意欲的な取り組みの場の提供ができた。 実習中の事故が数件有り、安全指導を徹底していかなければならない。
		技術を高め、知識の一体化を図る。	A		
情報	教科指導	基本的な情報スキルの習得	A	B	放課後等も生徒自身が積極的に課題に取り組んでいる。1年生の資格取得者が減少傾向にあり、啓発や各種資格の精選が必要である。
		進路に結びつく情報活用能力を育成	B		
次年度に向けた改善の方向性		<ul style="list-style-type: none"> ・地域の少子化に対応する学校像について、プロジェクト会議を発足させた。議論はまだ収束しないので、さらに綿密な分析に基づいた具体的な行動計画を策定する必要がある。 ・広報活動について、内容は高い評価をもらっているが、地域や保護者への浸透が不十分であり配布方法など工夫が必要。 ・公開授業や授業評価など様々な企画を行ったが、明確な目標と各企画間の系統性、次への展開に工夫がいる。 ・進路指導についてはさらに系統性を高めるとともに資料の充実が求められる。 ・生徒の生活状況は良好であり、部活動生徒会活動も活発である。さらにリーダー意識を育てたい。 ・学習については、中高間のスムーズな接続、家庭学習の定着が課題である。 ・専門学科は、農場経営、学習指導、進路指導面で成果があげた。安全面での管理徹底が課題 			